大府市消防本部と知多中部広域事務組合消防本部が連携し、救急医療を DX で支える！救急支援システムを導入します！

大府市消防本部は、救急活動の迅速化と救急隊・医療機関間の情報共有の円滑化を図るため、2027 年 1 月 1 日から「救急支援システム」の運用を開始します。

本市では、これまで全国に先駆けてマイナ保険証を活用した救急活動の実証事業を行うなど、救急活動の質の向上に取り組んできました。新たに導入するシステムは、紙の記録表に代わり、OCR や撮影などにより効率的に収集・記録した傷病者情報を、電子データとして医療機関と迅速に共有するものです。

タブレット端末に傷病者の情報や血圧・脈拍などの測定値、服用薬の情報などを入力し、医療機関へ送信することで、医療機関は救急車の到着前から傷病者の状態を把握し、治療に向けた準備を進めることができます。システムの導入により、受入先医療機関の選定や搬送後の治療の迅速化を図り、地域の救急医療体制の充実につなげます。



■「救急支援システム」の概要

運用対象／大府市消防本部および知多中部広域事務組合消防本部の救急隊

連携医療機関／14 医療機関

※あいち小児保健医療総合センター、藤田医科大学病院、刈谷豊田総合病院、知多半島総合医療センター、中京病院、国立長寿医療研究センター、西知多総合病院、大同病院、知多厚生病院、石川病院、りんくう病院、名古屋南脳神経外科クリニック、杉石病院、青山外科

運用開始日／2027 年 1 月 1 日（金）

システム名／救急支援システム「NSER mobile」

運営会社／TXP Medical 株式会社（本社：東京都千代田区　代表取締役 園生智弘）

主な機能／**①OCR 機能**

運転免許証や救急車内のモニターなどを読み取ることで、氏名、住所、生年月日、血圧値、脈拍数などを自動的に判別し、入力項目に振り分けます。

②傷病者情報の伝送機能

事案概要、氏名、生年月日、血圧値、脈拍数などの情報に加え、けがの様子や事故現場などの画像・動画を医療機関へ伝送します。

③医療機関とのリアルタイム連携

タブレット端末で医療機関の受入状況を確認でき、受入先医療機関の選定を支援します。

期待される効果／

①傷病者情報の確認時間の短縮

これまで手書きの帳票で行っていた確認事務について、マイナンバーカードや運転免許証などの本人確認書類、お薬手帳から必要な情報をタブレット端末の OCR 機能で読み取ることで、現場での確認時間を短縮します。

②医療機関への情報送信の円滑化

傷病者の情報、血圧・脈拍などの測定結果、服用薬の情報に加え、けがの様子や事故現場などの写真・動画を医療機関へデータで送信することで、情報共有を円滑にします。また、医療機関における救急車の待機時間の短縮を図ります。

③消防本部間の連携強化

大府市消防本部と知多中部広域事務組合消防本部※が共通のシステムを導入します。両消防本部は、搬送先となる医療機関が重複していることから、救急活動に関する情報を共有し、医療機関への情報伝達を円滑にします。両消防本部の救急活動の効率化と、地域全体の救急医療体制の充実につなげます。

※管轄自治体：半田市、阿久比町、武豊町、東浦町

■救急支援システム運用開始に向けた職員研修会の概要

日時／2026 年 12 月 10 日（木）、11 日（金）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分
2026 年 12 月 15 日（火）午前 10 時～正午

会場／大府市消防本部（大府市大東町 3-202）

受講者／大府市消防本部職員 100 人

内容／TXP Medical㈱の社員が講師となり、タブレット端末の操作方法、システムの運用手順の確認、実際の救急活動を想定したシミュレーション訓練を行います。

※取材を希望する場合は、事前に消防署（電話：0562-47-2136）までご連絡ください。

■参考資料　「応需状況の可視化」

【問い合わせ先】　大府市消防本部　消防署　担当：深水　宏一（フカミ・コウイチ）
電話：0562-47-2136　FAX：0562-47-2398　メール：obsu-fire@city.obu.lg.jp